

知床世界自然遺産地域における 次期総合評価書の枠組みについて（案）

1. 本資料について

①これまでの検討経緯（下記資料）を元に、総合評価の枠組を再検討した上で、「指標」「評価に用いるモニタリング」「関連するモニタリング」を再整理したもの。

◇今年度第1回科学委員会・資料2-3「長期モニタリング計画 第二期計画の策定検討に向けた基礎資料」及び左記を更新した各WGの資料

◇今年度第1回科学委員会・参考資料3_③知床世界自然遺産地域長期モニタリング計画 評価項目の評価シート（案）

- ・評価基準を設定しているモニタリングは「評価に用いるモニタリング」として整理。
- ・基礎情報、参考情報に関するモニタリング項目として、評価基準を設定していないモニタリングについては、「関連するモニタリング」として整理。

②再整理にあたっては、以下の点に留意。

◇「指標」と「評価に用いるモニタリング」の冒頭番号は共通のものを使用

◇冒頭番号はこれまでの整理に基づく

ー主に関係行政機関で実施するモニタリング項目；1、2、3、、、

ー地元自治体、関係団体、専門家、その他の行政機関等に協力を依頼するモニタリング項目；①、②、③、、、

◇最右列に整理に当たっての気づきの点等を記載

2. 本WGでの論点

本WGに関連する評価項目（F、G）を中心に、以下の点について検討。

①各指標をどのような基準で評価するのか（現行計画での基準継続も含めて）

②「関連するモニタリング等」の中で、指標を設定し、総合評価に活用していくものはあるか。または現在、指標を設定し、モニタリング結果をもとに評価している項目の中で、次期長期モニタリングでは「関連するモニタリング等」として実施し、総合評価では基礎情報として取り扱うものがあるか。

③気候変動の影響もしくは影響の予兆に関する指標やモニタリングとして設定できるものは他にないか。

④特に、「△再検討の余地」とされていたモニタリング項目、「知床の世界自然遺産としての価値に対する気候変動の影響もしくは影響の予兆はみられるか」に関する指標及びモニタリング項目の妥当性。

※検討にあたっての留意

- ・全体として、各指標により、どのような考え方で評価項目を評価するのかについて、その関係性が分かるよう整理することが必要。
- ・例えば、今回の総合評価では、評価項目「特異な生態系の生産性が維持されていること」について、「アザラシに絶滅のおそれが生じていないか」を評価基準として評価しているが、評価項目と評価基準との関係性（＝アザラシに絶滅のおそれが生じていないことをもって、生産性が維持されているとする理由）について、わかりやすく示すことで一般にも理解しやすいものとなるものと思料。